

①先人の教え

風 林 火 山

「疾きこと風の如く、徐かなること林の如し、

侵掠すること火の如く、動かざること山の如し」

孫子の兵法「風林火山」の文言である。日本では、兵を用いるには、早めに決断し迅速に行動せよ。それまではガヤガヤ騒いではならない。やるとなれば大兵力を集中して激しく攻めるが、そうでないときにはウロチョロしてならない、ということである。

それは、兵を動かして戦をする場合に限ったことではない。個人の仕事でも企業の事業でも同じだろう。

企業が新規事業を起こしたり、リストラをやったりする場合、まずは静かに調査し企画を練り決断は早めに、事業予算は大きめにしなければならない。「まだ決心がつきかねるから、来年あたりから少しずつやってみるか」というのは最悪であり、大抵は、その「少し」を失い、引き上げる決心もつかないまま、ずるずると追加支出をして、決局は大損をすることになりやすい。兵法が厳禁している「兵力の逐次投入」という愚策である。

また、事業を実施するに当たっては会社全組織を挙げて火の玉にならなければ成功はおぼつかない。「これはあの連中の仕事」と横を向いている社員が多いようではうまくいかない。ましてや首脳部があたりの情勢をうかがってばかりいて決断せず、担当者の行動を縛るようでは失敗する。

決心するまでは「徐かなること林の如く」構えて、すると決めればすぐに行動すべきである。決めたら火の玉になって邁進し、少々の困難や予想外には慌てず騒がず、山のように落ち着いているのがよい。特に重要なのは、世の評判や他人の噂に驚き慌てないことである。いいニュースに飛びついて方針を変えたり、少々の逆風に怯えて逃げ腰になったり、方針が定まらないようではダメである。「風林火山」の教えはみんな知っている。しかし、その格言を実行するとは難しい。だからこそ、格言として値打ちがあるわけだ。

故石田会長語録より

この格言は山半の方向性を示し、今の世でも通用する営業戦力を教える格言です。

社員一人の力は小さいが、社員全員の力は大きく、会社全組織体制が必達目標の最低必要条件です。そして、この時代を強く生延びる企業を全社員で目指します。